

## I 特別支援学校（肢体不自由）

### （1）学校の概要

H 特別支援学校は、肢体不自由及び病弱特別支援学校である。在籍数は小学部 31 名、中学部 13 名、高等部 16 名である。また、訪問学級を有する。教育課程は、該当学年に準じた教育課程を主、各教科及び外国語活動の目標及び内容に関する事項の一部を取り扱わない、知的障害教育の指導内容を代替、自立活動を主、個々の実態や教育的ニーズに応じた編成の5つ設定されている。

### （2）ICT 活用の状況

タブレット型コンピュータについては、iPad および Windows タブレットの計 39 台整備されている。Windows タブレットは、主に高等部でオフィス系ソフトの活用している。

校内の ICT を推進する分掌は、マルチメディア教育、および、自立活動部であり、研修会は、タブレット型コンピュータの納入時期にあわせた実施や、自主研修により開催している。また、教科書教材教具備品担当が教材・教具の作成方法を毎年製作し、インターネットで公開している。

無線 LAN 環境については、無線 LAN 独自の特別な制限は設けておらず、有線 LAN と同様に利用できるようになっている。

有料アプリは、納入業者を通じた有料アプリをライセンスで購入する方法や、県として今年度、管理ネットワークを構築予定である。また、県の ICT 事業指定校 3 校の内の 1 校であり、校内委員会を拡大し、指導部分は自立活動部が担っている。

長時間座位を取ることが難しい生徒に対して、プロジェクターの設置を工夫することで天井に投影し、リラックスした姿勢で学習ができるように配慮を行う。ベッドサイド学習を行っている生徒に対して、季節を感じることをねらいタブレット型コンピュータを用いて季節に関する画像を提示する活用等、実態に応じた ICT 活用を行っている。

### （3）事例

本事例は、高等部1年、女子1名、自立活動「iPad で写真を撮ろう」で取り組んだものである。生徒の課題として、脳性麻痺により、上肢・下肢の緊張が強いこと、言葉でコミュニケーションをとることができることが挙げられる。パソコン等を将来使えるようになってほしいとの保護者の願いがある。

将来的にタブレット型コンピュータを操作できることを長期的な目標としている。初期段階の指導として、タブレット型コンピュータに慣れるためにも、写真を撮ることからはじめることとした。授業の中で撮影した写真は、デジタル写真展に出展する予定である。

本事例のねらいは、「画面をよく見て、撮影することができる」、「撮った写真を自分で見て確認することができる」の2点である。また、撮影する場所まで SRC ウォーカーを使用して歩く」活動を通して、歩行を意欲的に行うこともねらっている。

授業の内容は、中庭で栽培している、ひまわりの写真を撮影することを目標に次の活動を行うものである。

- 2枚の花の絵からひまわりを選ばせ、用語の確認をする。
- ひまわりがある場所まで SRC ウォーカーにより移動をする。
- iPad を操作し写真を撮影する。
- 撮影した写真を確認する。

配慮事項として、iPad のシャッターを押す際の指の緊張を緩めるためのマッサージをすること、つめで押しにくさを軽減するために、「導電ゆびさっく」を用いる。なお、撮影ボタンを押すことに時間がかかることが課題である。



図 4-2-6 SRC ウォーカーにより移動している様子

写真撮影時にシャッターを押すことができた際、笑顔でとても喜び一人でできた達成感を味わうことができた。シャッターを押すときに緊張が強くなってしまいうため、肘を教師が支えることでスムーズに押すことができた。フリック操作をする際は、ぎこちなさがあるが、画面を動かして写真を見ることができた。また、うれしそうに何度も指を動かして写真を見ようとしていた。ひまわりを撮影する目的があったことで、SRC ウォーカーでの歩行を意欲的に行うことができた。

#### (4) 特徴的な点に関するまとめ

本事例は、自立活動を主とする教育課程に在籍する生徒への実践であり、SRC ウォーカーやスイッチなど肢体不自由特別支援学校でよく使用される器具を、ICT の活用と併せて実践している。また、手指の特徴によるタブレット型コンピュータの操作のしにくさを、

「導電ゆびさっく」を用いることや、指の緊張をゆるめるためのマッサージを行い軽減させている。また、生徒の姿勢に応じた支援機器を設置をするなど、生徒の姿勢に配慮した機器の活用がなされている。

(新谷洋介・金森克浩)

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「C-94 障害のある児童生徒のための ICT 活用に関する総合的な研究—学習上の支援機器等教材の活用事例の収集と整理—」（平成 28 年 3 月）、84-85 に記載された内容である。